

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 21 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K03163

研究課題名(和文) 近世近代移行期環大西洋世界におけるユグノー・ネットワークの影響

研究課題名(英文) The Impact of Huguenot Networks in the Atlantic World in the late 18th and 19th centuries

研究代表者

西川 杉子(NISHIKAWA, SUGIKO)

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：80324888

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、18世紀後半ブリテン諸島におけるユグノーの子孫の役割を具体的に解明することに努め、次の新たな知見が得られた。18世紀中葉に活躍したユグノー亡命者の子孫は、イングランド社会の上層部に同化したものも多いが、困窮した同胞のために救貧委員会およびユグノー救護院の運営に積極的に関わり、アイデンティティとネットワーク、そしてヨーロッパ・プロテスタントとの連帯運動の記憶を保っていた。これらの特性は19世紀中葉にも受け継がれて、近代歴史学の発展の中で強く意識されるようになり、ユグノー研究の中心的学術団体ユグノー協会の設立(1885)につながったことが確認できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ユグノー救護院に関わるユグノーの子孫が、ユグノー協会の設立にも関わっていたことは比較的良好に知られている。しかし、17世紀末のユグノー亡命者の記憶とネットワークが、18世紀中葉、イギリスのエスタブリッシュメントに属するようになったユグノー子孫に受け継がれて複数のプロテスタント救援活動を支えたこと、またさらにその子孫が、19世紀の近代歴史学成立・展開の中で、ユグノー協会の設立を行なったことは、これまで明らかにされてこなかった。本研究が、18世紀中葉のユグノー第二世代の活動を具体的に解明し、その記憶の継承を裏付けたことは、ユグノー研究、宗教が核となったアイデンティティ、記憶の歴史の観点からも意義がある。

研究成果の概要(英文)：In this study, I examined the societal role of Huguenot descendants in the British Isles in the latter half of the 18th century and in the 19th century. Although by the mid 18th century many Huguenot descendants had been assimilated into the British political and religious elites, analysis of their relief activities for fellow Huguenot descendants and other Continental Protestants- such as the Vaudois committee and continuing support for the French Hospital - demonstrate the persistence of a Huguenot identity, their network and a collective memory of solidarity with other European Protestants in the 17th century. These characteristics persisted into the middle of the 19th century and were key drivers of the development of modern historical studies which led to the establishment of the Huguenot Society of London (1885), a central academic organization for Huguenot studies.

研究分野：西洋史

キーワード：ネットワーク 宗教 ユグノー 記憶 ファミリー 連帯運動

1. 研究開始当初の背景

今世紀に入り、欧米歴史学界では、世俗化したとみなされてきた18世紀以降のヨーロッパを扱った歴史叙述において、宗教的役割の再評価の試みがなされるようになった。「キリスト教世界」と「イスラーム世界」の対立を示す紛争の実態・言説が氾濫し、世俗国家よりも信仰への帰属を重視する集団の社会的影響が大幅に増した一方で、ヨーロッパでは移民に対して「キリスト教文化圏」への一定の同化を求める声や動きが顕著になったことを反映しているであろう。私は、これまで17世紀後半から18世紀の近世イングランドとヨーロッパ大陸の宗教的連帯運動を考察し、イングランドで設立された自発的結社「キリスト教知識普及協会」を中心に、カトリックの脅威に対抗するプロテスタント・インタナショナルと呼べる汎ヨーロッパ的ネットワークが機能していたことを明らかにしてきた。キリスト教知識普及協会は、18世紀中葉にはヨーロッパ大陸の宗教的連携運動から後退したことを確認したが、同時に、イングランドに亡命したユグノー（フランス・カルヴァン派）の第二・第三世代が中心となって、イングランド政府及び国教会と大陸プロテスタント諸勢力との連携運動を支えたのではないかと推測をしている。これは、一見したところ、18世紀後半イングランドでは、社会全体としては宗教的紐帯よりも国民的結集が強まり、一部の宗教的マイノリティのみが宗教的紐帯の記憶を保持したという、従来の18世紀像を補強するものだが、一方ではユグノー難民の子孫の体制内での影響力の増大を意味しているのではないだろうか。実際、これらのユグノー子孫は、イギリスの政・財・宗教界で活躍するエリートが多い。彼らのイギリス・エスタブリッシュメント内での役割が、帝国プロジェクトの枠組み形成に関与したのではないかと仮説を立てた。しかし、18世紀後半のユグノー難民第二・第三世代についてはプロソポグラフィ的研究もしくは商人一族の研究に限定されがちで、近世近代移行期の環大西洋世界における彼らの宗教ネットワークの役割の評価を試みた研究はほとんどなされていなかった。

2. 研究の目的

本研究は、18世紀後半から19世紀のブリテン諸島におけるユグノーの子孫の役割を具体的に解明し、近世から近代への移行期における宗教の役割およびそのネットワークの変容を具体的に明らかにすることに努めた。

3. 研究の方法

本研究では、18世紀後半イングランドの宮廷・財界・宗教界エリートとなった亡命ユグノーの子孫に関するデータ収集を重点的に行なった。とりわけヨーロッパのプロテスタントとのネットワーク（姻戚・家族、教育、宣教、様々な経済活動など）を保持したユグノーに関連した情報を集め、ユグノーの交流の広がりやを特定し、そこから彼らの宗教的紐帯で結ばれた世界観

の手掛かりを得ようとした。特に、18世紀中葉の大陸プロテスタントのための救援活動に関与した人脈を手がかりにした。また、イングランド社会におけるユグノー集団の諸連帯がどのように展開して行ったのかを明らかにするために、18世紀に基礎が形作られたユグノー・エリートによる教育支援、貧民救済や福祉施設、さらに学術団体イギリス・ユグノー協会などの諸制度・諸機関設立へ結びつく記憶保持のための諸努力を検討した。

データ収集を行なったのは、英国図書館（ロンドン）、ランベス宮殿文書館（ロンドン）、英国公文書館（キュー）、オックスフォード大学ボードリアン図書館（オックスフォード）、サマセット州文書館・地域研究センター（トーントン）、ザールブリュッケン改革派教会（ドイツ・ザールブリュッケン）、ケント州ファーヴァシャム、ユグノー博物館（ロチェスター）である。

4. 研究成果

データ収集とその分析により次の新たな知見が得られた。

- ① 1699年のヴァルド派指導者アンリ・アルノーのロンドン滞在と4人のヴァルド派奨学生の影響と記憶：アッピア家の記憶は19世紀のヴァルド派支援への関心を高めるのに貢献。ジロー家の記憶は詳細なファミリー・ヒストリーを記録し、19世紀ユグノー研究の拠点となるユグノー協会の設立に貢献した
- ② 18世紀中葉、イギリスのエスタブリッシュメントの一員となった子孫たちの活躍・記憶の継承
 - a. ジャン・ジャック・マジエンディ：ユグノー救護院の幹事であると同時にイングランド国教会の中で地位を高め、国王一家の側近となった。ヨーロッパ大陸のプロテスタントに関してはカンタベリー大主教セッカの相談役を務めている。ハンガリー・デプレセン救援委員会、ヴァルド派救援委員会委員長も努めた。
 - b. ジェームズ・ポーター：イスタンブル駐在ブリテン大使。イスタンブルのヨーロッパ人コミュニティや東欧のプロテスタント少数派に17世紀イングランドの義捐金募集の情報を与えた可能性が高い
- ③ ケント州ファーヴァシャムの地域社会とユグノー・ヴァルド派の子孫の関係：ファーヴァシャムは近代、爆薬工場を中心に繁栄した都市であるが、ここで、多くのユグノー子孫が勤務していたことが確認できた。特に、①のジローの一族は、18世紀前半にファーヴァシャムのイングランド国教会聖職者として町に定着してから、各方面で活発に活動していた。
- ④ イギリス・ユグノー協会の設立に貢献したブラウニング（18世紀初頭に渡英した先祖の名はジロー）。ブラウニングはユグノー救護院の幹事であったが、救護院の記録を精査・整理するうちに歴史協会の重要性に気がついた。中小の歴史学協会やフリーメイソンとも関わっている。地域社会の中で歴史学に関わりあうようになった。

これらの情報から得られた、現段階での結論は次のとおりである。18世紀中葉に活躍したユグノー亡命者の子孫は、イングランド社会の上層部に同化したものも多いが、困窮した同胞のために救貧委員会およびユグノー救護院の運営に積極的に関わり、アイデンティティとネットワーク、そしてヨーロッパ・プロテスタントとの連帯運動の記憶を保っていた。これらの特性は19世紀中葉にも受け継がれて、近代歴史学の発展の中で強く意識されるようになり、ユグノ

一研究の中心的学術団体ユグノー協会の設立(1885)につながったことが確認できた。近代の歴史学が大学を中心としたアカデミズムの中にとどまらず、市民レベルより広い社会の中で発展したことが裏付けられた。

しかし、本研究には当初の目的を完全に達成したとは言えない。本研究は、近世近代移行期環大西洋世界におけるユグノー・ネットワークの影響と題している通り、環大西洋世界でのユグノー・ネットワークの影響を検討する予定であったが、2020年に刊行されたオーウェン・スタンウッドの*The Global Refuge: Huguenots in an Age of Empire* (Oxford University Press) とテーマが重なったこと、さらに、2020年春に始まったコロナ禍のために北米のユグノー協会の資料収集を断念せざるを得なかったことが重なり、ヨーロッパおよびイギリスに焦点を絞ったものとなった。

なお本研究が、リトアニアのメディアにおいても注目され、短いドキュメンタリーで紹介された。ドキュメンタリーのタイトルは、“The Promised Land” (parts 1 and 2) であり、製作はリトアニアのthe national INFO TV channel、放送日は 6-7November 2021である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Sugiko Nishikawa	4. 巻 10
2. 論文標題 Henri Arnaud in London, 1699.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Riforma e Movimenti Religiosi	6. 最初と最後の頁 171-190
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 西川杉子	4. 巻 1
2. 論文標題 クローズアップ：コロナ禍における大学での試み.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 山川歴史PRESS	6. 最初と最後の頁 2-5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sugiko Nishikawa	4. 巻 8
2. 論文標題 Introduction (Special Feature: William III and the Glorious Revolution)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The East Asian Journal of British History	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西川杉子	4. 巻 987
2. 論文標題 近世の宗派ネットワークと文書館調査	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 33-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西川杉子	4. 巻 88
2. 論文標題 ルターを引き継いで 17・18 世紀プロテスタントたちの連帯運動	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 史学	6. 最初と最後の頁 109-131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西川杉子	4. 巻 72
2. 論文標題 理性の時代の宗教改革	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 福音と世界	6. 最初と最後の頁 40-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 西川杉子
2. 発表標題 同胞・異邦人・法王教徒;近世イングランドのプロテスタント・インタナショナル
3. 学会等名 「近世ユーラシアの宗教アイデンティティ：グローバル多元主義と地域大国主義の相克」研究会 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 西川杉子
2. 発表標題 同胞・異邦人・「非国民」-近世イングランドのプロテスタント・インタナショナル-
3. 学会等名 「近世ユーラシアの宗教アイデンティティ：グローバル多元主義と地域大国主義の相克」研究会 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 西川杉子
2. 発表標題 ルターを引き継いで -17・18世紀プロテスタントたちの連帯運動
3. 学会等名 2017年度三田史学会大会総合部会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 Sugiko Nishikawa (分担執筆)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 248
3. 書名 Huguenot Networks, 1550-1750: The Impact of a Minority in Protestant Europe	

1. 著者名 Sugiko Nishikawa (分担執筆)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 356
3. 書名 Religious Interactions in Europe and the Mediterranean World: Coexistence and Dialogue from the 12th to the 20th Centuries	

1. 著者名 Sugiko Nishikawa (分担執筆)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 242
3. 書名 New Worlds? Transformations in the Culture of International Relations Around the Peace of Utrecht	

1. 著者名 西川杉子 (分担執筆)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 吉田書店	5. 総ページ数 897
3. 書名 商業と異文化の接触 中世後期から近代におけるヨーロッパ国際商業の生成と展開	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	マードック グレアム (Murdock Graeme)	トリニティ・カレッジ・ダブリン	研究に関する助言を得た
研究協力者	コヴァーチ エイブラハム (Kovacs Abraham)	デブレセン改革派大学	研究に関する助言を得た
研究協力者	ジュリアン バーバラ (Julien Barbara)	イギリス・アイルランド・ユグノー協会	研究に関する助言を得た
研究協力者	マードック テッサ (Murdoch Tessa)	ユグノー博物館 (イギリス・ロチェスター)	研究に関する助言を得た
研究協力者	グウィン ロビン (Gwynn Robin)	所属なし	研究に関する助言を得た

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------